全附P連PTA研修会
第15回全国大会

子どもたちとこの国の未来のために
～語り合おう、いまわたしたちのできることを～

日　時	令和６年9月27日（金）13：00～15：30 ～ 9月28日（土） 9：00～12：40
会　場	リーガロイヤル東京
行　事	①全附P連 第15回全国大会 ②中附P連 会長会（28日8：00～8：45）
参加者	前田校長・小林副校長 内田会長・森上副会長・松岡副会長

①全附P連　第15回全国大会

まず今回も各省庁から現在取り組んでいる事案や現況の説明などありました。校園内での問題は法整備に合わせ学校とPTAが連携して早急な対応が求められることも確認。

基調講演・分科会では、学校教育の改革・意識改革を学校・保護者共に共有して改善していく必要性を強く感じました。また自立し自ら判断できることがこれからの社会で求められる人間像であり、個々の個性に合わせた尊重と、子供達に寄り添いながら見守る重要性を教えて頂きました。

②中附P連 会長会

- 本年度の中附P連広島大会についての最終確認や案内、更に来年度開催の鳥取大会の概要説明
- 再来年度の岡山大会の準備を見据えて具体的に来年発表のための計画検討進めることが必要
- 令和8年度全国国立大学附属学校連盟絵画コンクール 中国地区開催の主幹校を選出するため、次回広島大会で決定

【全附P連　全国大会に参加して】

昨年度に引き続き今回も参加させて頂き、全附連・全附P連の進める附属学校園の存在意義や、今後の目標を共有するとても有意義な会でした。
その中で、昨今取り上げられる非認知能力の重要性など、今までの学校教育として当たり前と思っていたことも、変換していかなければと考えさせられる多くの事案や提案を受け、教員の目的意識や保護者などの見守る姿勢、指導する方向性をも意識改革が必要と感じました。
記憶する学習ではなく個々に考え判断していける能力や資質が必要であり、指導者や保護者が今後どのように対応していくべきかを真剣に検討必要と感じます。
もっと自ら考え疑問を追求していく過程で経験を増やし、その経験値から自分で判断できるよう生活から見直してみようと思いました。

報告者　ＰＴＡ会長　内田 裕之